

2023年！統一地方選で奈良がどう変わるか。



プロフィール

- 1994年3月23日生まれ
- 広陵西小/広陵中/畝傍高校/大阪大学法学部
- 2016年ITベンチャー企業(株)エクス入社
- 2019年First Step開業(主にIT事業を手掛ける)
- 2020年広陵町議会議員選挙初当選

28歳 最年少広陵町議会議員

ちぎた 慎也

もくじ

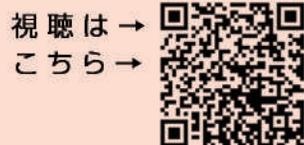
- 12月議会の概要
- 小学校の給食費があがります
- 讃岐神社でマルシェを開催しました
- 広陵のイベントが続々!
- ちぎたの読書ノート
- チギトーーーク

↓ SNSでも発信中! ↓



YouTubeでも発信中!

活動報告会



2023年2月25日(土) 19時~20時

チラシの内容・時事問題・最近の活動等をお話します。
アーカイブも残します!コメントお待ちしております!

広陵で働く!



広陵で働く若手を取り上げる企画。
取材依頼もお待ちしております!

ちぎたの一般質問

- 質問1 大阪・関西万博を活用し、観光もできる靴下の町に。
質問2 使える、活きる、ふるさと納税の運用を。

詳細は下部に記載

小学校の給食費が値上げに

令和5年4月より、小学校の学校給食費が月額4,200円から4,600円に値上がりいたします。ただし、令和5年度の徴収額は、据え置き(4,200円/月)とする特例措置が取られます。私はこの議案(条例の改正)に反対をいたしました。

広陵町は工夫を凝らした給食の提供や食育に力を入れてくださっておりますし、物価高騰により1食あたりの給食にかかる費用が膨らむことは理解できます。もちろん、子供に提供する給食の質を落とせとは言いません。しかし、給食の材料費は必ずしも保護者負担だけで賄う必要はありません。子育てを応援する町として徴収す

る給食費を抑えるために予算を設けることも可能です。何より、実質的には令和6年度から徴収する学校給食費を今から増額する必要はないと思います。条例上の徴収額が予算の根拠になる、という理由でしたが、予算の算出根拠はあくまで給食の提供にかかる材料費です。



↑ 小学校の給食を試食

古寺の交通公園の今後

古寺にある交通公園ですが、老朽化も進んでおり、規定上都市公園としては廃止されることになりました。

つまり、今の用途以外にも使えるようになるということです。本来の広陵交通公園の機能である、交通安全教育については、交通指導員の方が学校や園に出張して指導いただいていることです。

さて、今後の当該エリアの活用方法ですが、過去にはスポーツ公園としての一体的な整備の構想もあったようですが、広陵町の現状を踏まえると、こども園の候補地としての活用案が挙がっているようです。



一般質問

大阪・関西万博を活用し、観光もできる靴下の町に。

2025年に開催予定の大阪・関西万博では、開催期間中に2,820万人の来場者数が見込まれています。この機会に広陵町の新たな観光資源として靴下産業も捉え直してはどうか、ということをご提案しました。

町内の靴下事業者を見ておきますと、町内で靴下を買える工場直営店であるとか、ブランドを発信するための拠点を整備しておられます。「靴下を作る」だけでなく「靴下の町に来る」ための仕掛けづくりが民間主導で行われていると言えます。近畿経済産業局の地域ブランドに「広陵くつした」を登録している広陵町として、ま

じまった平成20年から一度も変わっていません。ポータルサイトで打ち出しているふるさと納税の用途が変わっているのにこの規則が変更されていないのはおかしい、担当が変わっても寄付者を裏切ることなく寄付金の運用ができるように、規則を実態に即し変更すべきと訴えました。町長から適正に対応するとの回答をいただきました。

質問全文



ちぐるみの取り組みが必要です。ハードの整備として、例えば、靴下柄のマンホール、靴下形の横断歩道やフェンス、ソフトの整備としては、靴下工場の見学プランの策定や発信を提案しました。ふるさと納税業務等を委託している地域商社の「なりわい」がコーディネートを務めれば相乗効果もあるだろうと感じました。

さらに、海外の方をお招きするために、最近交流のある在京都フランス領事館であるとか、東アジア政府会合でのつながりを利用して欲しいと伝えました。ちなみに、内閣府から、万博のホストタウンとしての打診もいただいているようで、ぜひ積極的に手を挙げていただきたいと思います。

使える、生きる、ふるさと納税の運用を。

が建設できるようになります。既存施設には、靴下技術の伝承・情報発信機能(見学・体験施設)を導入いただけるそうです。さらに、新施設の敷地内にはオープンスペースを設けていただけるとのことです。

一般質問でも取り上げたように「靴下の町」として「製造」だけにとどまらない魅力づくりが重要になってくると思いますので、非常に期待したいところです。

令和4年度の広陵町のふるさと納税額は1億円を超えたそうです。これからも寄付を続けていただくためには、返礼品の開発やPRに加えて、どのようにふるさと納税を使っていくのか、というのが重要になります。実際、他の地域ではふるさと納税のポータルサイトで謳っていた用途にふるさと納税を使っておらず、批判されているケースもあります。逆に、どのような目的で集めて、どのようなことに使ったのか、明確に公表している自治体は順調に納税額を伸ばしています。島根県雲南市等がうまく運用されていて、クラウドファンディング型のふるさと納税等も活用されています。

広陵町がふるさと納税で集めたお金は「広陵町みどりのふるさと応援寄附条例施行規則」に則り運用されていますが、この規則がふるさと納税制度が

せん。讃岐神社の魅力をもっと知っていただくために企画しました。当日は町内事業者や赤部子供会にブースを出店いただきました。参加者・出店者がわいわいと交流でき、楽しい一日となりました。大きな会場でのイベントも良いですが、地域のまだまだ活用できていない場所を使うのも有意義と感じました。



新しいイベントが続々と!

<TUMUGU FOOD STREET>

- ▶ 2月26日(日)10:00~16:00
- ▶ 馬見丘陵公園南エリア付近の道路上

<広陵万博>

- ▶ 3月11・12日
- ▶ 竹取公園北側

詳細はイベントのインスタをチェック!

地区計画はまち全体の「絵」を踏まえて

「竹取公園西地区地区計画」が策定され、これにより、タビオ奈良株式会社が既存の検査・研究施設及び物流センターの向いに新物流センター

讃岐神社でマルシェを開催!(11/26)

私も所属している葛城JCが讃岐神社でマルシェを開催しました。讃岐神社はかぐや姫物語ゆかりの地でありながら、整備や活用が進んでいま

ちぎたの読書のノート

私、ちぎた慎也がいいな~と思った本(やその他のコンテンツ)についてご紹介するコーナーです。

第二弾は、司馬遼太郎さんの

『竜馬がゆく』

です。誰もが知ってる名作ですが、僕が好きなのは3巻の勝海舟と坂本龍馬の出会いのシーンです。開国論者の勝海舟を斬るために、竜馬が勝海舟のところへ押しかけるのですが、そこでむしろ竜馬が勝海舟に弟子入りしてしまうというシーンです。自分を斬りに来た相手を弟子にしてしまうという凄みに政治家としての魅力と度量の大きさを感じます。



チギトーーーク

2023年の正月はかなりコロナ前に近いものだったのではないのでしょうか。地元赤部でも、甘酒の振る舞いが復活し、様々な団体の賀詞交歓会が実施されました。年初に対面で挨拶やお話をするのは大事だと感じました。春にはコロナの感染症法上の位置づけが2類から5類に緩和され、屋内でのマスクも症状がなければ原則不要となるようです(花粉症なので私は外ではマスクですが、、、)。これまで断念されてきた事業や取組の実施が期待されます。

さて、今年の三が日は2年ぶりに熊野古道の中辺路を歩きました。2日で山道を60キロという行程でしたが、なかなかいい瞑想の時間になりました。僕にとっては今年が20代最後の一年となります。今年のスローガンは「絞」です。30歳に向けて、30代すべきことを絞り、そして、体を絞る一年にしたいと思います。みなさんの抱負も聞かせてください。